

## 【パリ 2024 パラリンピック競技大会 選手コメント 8月 30日】

### ◆男子 5000m(T11 クラス) 決勝

唐澤剣也(SUBARU) 「自己ベスト更新して 2 位。自分自身この 3 年間成長できていると思っているが、世界はもっと上をいっているなという印象で、次の大会に向けて強化が必要かなと思っている。前半の清水琢馬ガイドが、前が見える位置で 1 から 3 番位の所で交代するプランを立てていた。「チーム唐澤」として次に向けて成長していきたい。ご声援ありがとうございました。」

小林光二ガイド「自分の仕事はしたかな。楽な位置で清水ガイドからバトンタッチして唐澤選手もテザーに余裕があった。ラスト 1000、400mのキック 2 段階で想定してしっかり体現できたがそれで負けたのは力不足だった。」

清水琢馬ガイド「(自分が) 初めてのパラリンピックの大舞台で緊張しましたが、唐澤さんがメダルを取ることを目標にしていたので達成できて良かった。普通の大会とはやっぱり違って声援もすごく、いつもより唐澤選手への指示の声を大きくしながら走りました。」

和田伸也(長瀬産業)「(気温も低く) ハイペースにはなるかなと思ったが 2000 から 3000mくらいまでは良い感じで走れたが、古和田ガイドに交代してから追いつこうと思って切り替えたがペースアップできなかった。良い状態で臨めたけど。絶好の 5000 m日和だったと思うが前の 3 人が速かった。14 分台で金銀銅は異次元と感じるくらい。5000mはパラリンピック 4 回目だが、これで最後かなと思って良い思い出になりました。強い選手達と楽しいレースができた。」

### ◆男子 400m(T52 クラス)予選

伊藤竜也(新日本工業)「昨日、競技場で走ってみたがすごく感触は良かったが、今日は合わなかった。ここに臨むまでは良かったが、競技場についてから雨が降り気温も下がり、自分だけではないと思うが、そのあたりも敗因のひとつかな。(100mについては) 必ずメダルを獲得したいと思います。」

佐藤友祈(モリサワ)「(雨のレースで) スタート失敗したら嫌だなとか色々不安な思いはありましたが、しっかり対応ができて冷静に走ることができた。(夜の) 決勝は、

マキシム選手を倒せるようにトレーナーの方とコンディションを整えていきたい」

伊藤智也(バイエル薬品)「(T52 クラスになって) 自分の場所に帰ってきたなど。楽しくうれしく興奮しながら走れました。決勝のレースは、最低限メダルは欲しいね。それとこれまで積み上げてきたことを再現していきたい。」

#### ◆男子 400m(T52 クラス決勝)

佐藤友祈選手(モリサワ)「非常に悔しい。去年の世界選手権でマキシム選手と初めて対戦して負けてから、オランダのコーチにトレーニングを見てもらいしっかり調整して、自分自身、東京大会より力がついてきたと感じるが、今回はマキシム選手の力が1枚上手だったかなと。次の4年の期間をしっかりと調整して次こそは金メダルを日本に持ち帰りたいと思います。スタートに関しては自分自身ではトレーニングを積んできたことで改善できたかなと感じた。次の100mでは一泡吹かせたい」

伊藤智也選手(バイエル薬品)「気温の影響はあります。こんなの初めてです。レーシングウェアの上にジャージ来ています。滅茶苦茶寒いです。後半、腕が上がらず漕げなかった。メダル獲得は良かった。タイムには決して満足していないが、先ずは一つ結果が残ったと言う事に関しては、皆さんもご承知の通り、僕は大きなプロジェクトの中で、走っているので、走る立場の人間としては最低限の仕事が出来たのではと思います。東京からの3年間全然無駄で無かったし、その間諦めた事も無かったし、だからこそこうやって帰って来れたと思いますし、そういう意味では、本当に良かったかなと言う思いです。」

#### ◆女子 400m(T47 クラス)予選

辻沙絵選手(日本体育大学)「パリ入る前の記録会で59秒だったり調子を上げていたので58秒台を出して決勝を狙うつもりでしたが、(パラリンピック)3度目といっても気持ちが高揚したりして、かたくなってしまいう部分もありましたし、修正する部分も多い走りだったと思うので、決勝に進めるので走りを修正して納得いく走りで400mを収めていきたいと思います。」